

会 議 記 録 簿

| | | | |
|-----|---|-----|------------------|
| 件 名 | 令和4年度第2回恵庭市社会教育委員の会議 | | |
| 日 時 | 令和4年10月28日(金) 15:00～16:50 | 会 場 | 市民会館(中会議室) |
| 出席者 | 恵庭市社会教育委員 市橋、高橋、太田、松田、結城、井上、野藤、大嶋 (欠席)小玉、加藤 市教委 岩淵教育長、竹内部長、大嶋次長 (社会教育課)黒氏課長、桑原主査、佐々木主査、中井主査、中村、大谷 (読書推進課)岩崎課長 (郷土資料館)高橋館長 | 人 数 | 委員 8名 市教委 11名 |

概 要

1. 開会

2. 挨拶

恵庭市社会教育委員の会議 委員長 松田 一則
 恵庭市教育委員会 教育長 岩淵 隆

3. 議題

【報告事項】

(1) 「令和4年度社会教育事業報告(上半期)」について

社会教育課・読書推進課・郷土資料館

(説明)

A委員

(P.5)はじめてのYouTuber体験

おもしろ理科実験教室の参加者161名に対し、はじめてのYouTuber体験の参加者48名となっている要因は。

(P.6)長寿大学(大学・大学院)

高齢化社会が進んでいる一方で、高齢者の入学者数が減となっている現状について、適正と考えているか。

(P.8)～恵庭市の学校・地域をつなぐ～コミスクかふえ!

第1回と比較し、第2回の参加者の様子や所属の広がりについて、どのように分析しているか。

(P.16)市立図書館の利用状況

利用状況について、昨年度と比較しどのように分析しているか。

(P.18)常設展示室入替「戦争資料展」

時期的にも戦争を考える良いきっかけとなった。

社会教育課

(P.5)はじめてのYouTuber体験

おもしろ理科実験教室は夢創館を会場として、定員午前午後30名ずつの計60名にて参加者を募集。その結果、定員の倍近くの応募数となったため、出来るだけ多く受入れできるよう実施手法や会場配置を工夫し展開。

はじめてのYouTuber体験は1コマ(50分)3名を定員とし、1日あたり18名(2日間で36名)を受入数として募集。シナリオ作成や自己紹介動画の撮影、編集をレクチャーするものであり、マンツーマン形式による実施であることから、受入数が少なくなっている。

(P.8)～恵庭市の学校・地域をつなぐ～コミスクかふえ!

(資料P.31参加者の所属参照)

第1回と大きな変更はなく、所属は地域住民が多い。今後も様々な所属の方に参加していただき、各種情報や対話手法を自分の団体へ持ち帰って欲しい。

社会教育課

(P. 6) 長寿大学(大学・大学院)

コロナ禍前は250名前後が在籍していたが、今年度当初は120名でスタート。コロナ禍により体調を崩す方や、感染を恐れ、活動を自粛している方も多く、休学者が増えるとともに入学者数も減っている。また、現役世代として仕事をする方が増えていることを背景に、63-70歳までの入学者数が顕著に減少し、仕事が新たに見つかった等の理由で年間10数名が途中で退学されている。

一方、今年度は研修旅行を実施し、学生間のコミュニケーションを積極的に図った。これにより学生間の繋がりが自主的な事業展開も増え、今年度は退学される方は少なかった。コミュニケーションの大切さについて、今一度再確認できたことから、今後の展開について自治会とも協議を進めたい。

また、研修旅行の研修受入先について、大人数であること等から苦慮している面もある。100名程度の受入となれば、研修先が見つかりやすいという利点もあり、人数がコンパクトとなることは悪い面だけではない。しかしながら、多くの方に参加してもらおう意義は大きいため、今後も努力を続けて参りたい。

読書推進課

(P. 16) 市立図書館の利用状況

開館日数の増やイベントの実施により入館者数が増となっている。担当者としては、コロナ禍前の利用状況と比べ少なく感じる。

B委員

(P. 5) 領域：成人教育

成人教育の領域で実施しているものが少ないように感じる。女性活動支援や家庭教育以外の成人教育について、検討して欲しい。成人教育に含まれるかわからないが、保護者がGIGAスクールの教育内容(1人1台端末を使用しどのような学習をしているのか等)について学ぶ機会があっても良いのでは。

(P. 8) 恵庭公園探検隊!

通学合宿を実施していた他校区(恵み野除く)の状況について教えて欲しい。また、コロナが落ち着いたら、担い手が集まる機会を設けて欲しい。

社会教育課

(P. 5) 領域：成人教育

公民館や読書推進課の事業にも成人教育の要素は取り入れられているが、そのような意見が多く挙げれば、ターゲットに応じ参加の機会を設定できるよう検討したい。

社会教育課

(P. 8) 恵庭公園探検隊!

通学合宿の実施は令和元年度が最後となっており、6小学校区(島松・恵み野・恵庭・和光・若草・柏)にて実施。コロナ禍の宿泊は現実的ではないとどの校区も考えている。

島松：地域の歴史を学ぶ機会を創出できないか検討しているが、実施にはいたってない。

和光：防災関連で令和元年度に復活したが、コロナ禍を受け実施の検討を続けている。

若草：令和3年度に一度解散し、出来る状況になったら検討する予定。

柏：何かやりたい気持ちはあるが、担い手の高齢化が進んでおり、検討が進んでいない。

C委員

(P. 10) 公民館外国語講座

講師は日本人・外国人どちらか。

(その他) 英語の楽しさに触れる機会の創出

塾で英語を教えているが英語嫌いの子が増えている。小学生から英語の楽しさに触れる機会があれば良い。

社会教育課

(P. 10) 公民館外国語講座

外国出身の山崎メラニーさんが講師。

社会教育課

(その他)英語の楽しさに触れる機会の創出

恵庭子ども塾にて、令和元年度まで英語の楽しさに触れる事業を実施していた。英語しか話せないルールを設け、外国人の先生と泊まり込みで生活する『English Camp』や、北海道文教大学の外国の講師と協力し大学を探検する『English Campus』を実施。コロナ禍により実施できていないが、令和5年度以降も検討を続けたい。

D委員

(その他)垣根を超えた事業に合わせた報告書類の見せ方

対象を高齢者や子ども等限定せず、世代の垣根を取り払うような事業が増えてきている。世代の垣根を超えて展開する事業を今後も推進することで、担い手不足問題の解消が期待できるのではないかと。

また、先程成人教育の領域で行う社会教育事業が少ないとの意見もあったが、行政が主導で行わずとも、成人は文化やサークル活動などの自主活動を実施していると考える。特に、成人向けの事業は領域が横断されているものが多く、多様な領域を含む複合化事業だと認識できる報告書類の見せ方ができれば、委員の現実的な評価に繋がるのではないかと。

E委員

(P.18)常設展示室入替「戦争資料展」

D委員の意見(垣根を超えた事業の推進)は前回の社会教育委員自主研修会でも話題になったところであり、是非意見を吸い上げて欲しい。

また、戦争資料展について、郷土資料館の立地から恵み野旭小学校であれば徒歩で訪問できるが、他の学校は難しい。金銭面の措置をして欲しいとまでは言わないが、各学校スクールバスを運行できる回数は限られており、運行回数を増やすことなどを検討していただければ、市内全域の学校が訪問できるのではないかと。

郷土資料館

(P.18)常設展示室入替「戦争資料展」

公共交通機関による来館も難しいため、予算措置も含め、社会教育課と連携し検討したい。

(2) 第1回社会教育委員自主研修会について

社会教育課

(資料P.21-23に基づき説明)

委員長

自己紹介や取組紹介を行った。事業開催後の成果を分析することで、問題点が浮き彫りになる。他の事業の問題点と共通するものがあり、共有することで解決に繋がるのではないかと。

また、今後の研修会の方向性について協議した。回を重ね、内容を詰めていきたい。

D委員

若者をどう集めるかということが話題となっていたが、今年度は学生委員も2名いるので、若者のニーズを汲み取り議論に繋げていくためにも、是非意見を頂きたい。

(3) 大会・研修等参加報告

①第42回北海道市町村社会教育委員長等研修会

社会教育課

(資料P.25-26に基づき説明 ※講師名修正:山田智義→山田智章)

委員長

(資料P.25-26参照)

研修のポイント

- ・社会教育に関わる全ての人の現状把握
- ・地域特性を活かした事業の継続性(引継ぎ含む)
- ・個々のスキルアップ

②第61回北海道社会教育研究大会留萌大会(オンライン)

B委員

(口頭にて研修内容の説明)

恵庭市の場合、子どもを連れていく場所はたくさんあるが、事例紹介があった「おもちゃ図書館」などを事業の中で設置することもおもしろいと感じたため、検討したい。

D委員

特別講演では、公民館活動のマンネリ化や利用者の減少に対し、奇抜な発想で多様な事業へ取り組み、利活用を立て直した事例を紹介いただき、学びがあった。

また、基調講演の講師は「地域課題をどう解決していくかという視点で社会教育を展開し学びを提供できなければ事業は残っていかない」というスタンスを貫いており、恵庭市としても高齢化や有事の際に備えについて、学びがあるのではないかと。

分科会は、コロナ禍に対応し経験を積んでいる市町村と、対応できず停滞している市町村があり、二極化が進んでいると感じた。子どもたちを集める手法や工夫、開催場所の変更(不特定多数が集まることができない場所を避け学校で開催する等)を行っている市町村は、学びの機会を提供できている印象がある。

(4) 第2回～恵庭市の学校・地域をつなぐ～コミスクかふえ！について

社会教育課

(資料P.27-32に基づき説明)

D委員

ワールドカフェによる繋がりづくりについて一定の理解ができるが、今後のコミスクかふえの展開において、どのように活かされていくのか。また、どのような観点で井内さんの講演を組み込んだのか。

社会教育課

ワールドカフェは、それぞれの団体に議論が深まるような手法を学ぶという観点で実践した。次回はワークショップを行う予定。第1回の講演は基本的な情報や全国的な事例を紹介し、第2回の井内さんの講演は事業の仕掛け方や、参画者の取り込み方を学ぶという意図で展開した。

D委員

様々な活動がある幼稚園だと了承した上で、保護者自らが幼稚園を選択していることから、「恵庭幼稚園だからできる」という意見が出ていたため、そこに陥らないようなテーマ設定や仕掛けが必要だと思う。保護者や子どものニーズを捉え、園側も保護者側も両方が変わるという点は学ぶべきところであり、ポジティブな面で捉えられることが望ましい。そのような議論に、協力の立場である社会教育委員も関わらなければならない。

A委員

幼稚園のお手伝いをしていたことがあるが、公立よりも私立の方が保護者の要求に柔軟に対応でき、子どもの成長により良い効果をもたらすと私は考える。

B委員

井内さんは「多少小学校と連携できているが地域との連携が希薄であることが課題」とおっしゃっていた。まちスポで行っているファシリテーター育成の目指している先は地方自治であり、ファシリテーターが入ることで、全員が課題と捉え意見を言い合い考えるようになれることが目標。コミスクかふえはその一環。

【協議事項】

(1) 令和5年度社会教育関係事業について

社会教育課

事業報告にて既に多くの意見をいただいていることから割愛するが、他に意見等があればお聞きする。

B委員

団体の事務局を行政が担っているものは少ないと認識しているが、社会教育関係補助金一覧にあるすずらん踊り保存会について、社会教育課が事務局を担っている。担っている理由や移管する予定の有無についてお聞きしたい。また、他にも事務局を担っている団体があれば教えて欲しい。

社会教育課

独自運営が可能な団体は、自らが事務局を担うことが基本形だが、支援せざるを得ない団体もある。また、行政が会の一員となっているようなものも一部事務局を担っており、行政と地域で作る青少年育成市民の会等がそれに当たる。

すずらん踊り保存会や恵庭岳太鼓保存会は、郷土芸能の育成という観点からも事務局を担っているが、役割としては、事務的な部分や窓口、経理に留まる。

A委員

令和3年度と令和4年度で大きく変わっている点を教えて欲しい。

社会教育課

令和5年度に向け、新規事業の要望や取り組む視点を伺いたいという意図(令和4年度恵庭市の社会教育資料はあくまでも参考)であるため、今回は説明を割愛し、今後に向けた協議に留めさせていただきたい。

A委員

令和3年度と令和4年度で大きく変わっている点の進捗状況などから、来年度に向け協議できる場が別の機会にあるのであれば、それでいいと思う。

4. その他・意見交換

社会教育課

- ・フォーラム石狩の案内
- ・今後の予定
11月下旬 社会教育委員自主研修会
2月頃 第2回生涯学習推進協議会(評価あり)
3月頃 第3回社会教育委員の会議

社会教育課

- ・はたちの集い(旧成人式)の案内(1月8日予定) ※12月中旬以降、社会教育委員へ案内を送付予定
- ・市民の集いの再周知(11月19日予定)

B委員

- ・骨髄移植に係る普及啓発セミナーの案内

5. 閉会

